

仙北市温泉事業経営戦略 概要版

1. 経営の基本方針

国内でも有数の観光地である仙北市にあって、乳頭・田沢湖高原・水沢地区はとりわけ重要な観光拠点の一つです。当該地区の旅館等へ温泉を供給することにより、温泉事業は仙北市における観光振興の一翼を担っています。

事業開始時から市所有のカラ吹き源泉で造成した温泉水を全地区に供給していましたが、現在は造成量減退により源泉を所有する契約企業から別源泉の温泉水を購入し、田沢湖高原、水沢地区へ供給しています。

温泉は仙北市にとって重要な観光資源であります。将来にわたり安定的に温泉供給が継続できるよう、施設の維持管理を計画的かつ効率的に行ってまいります。

2. 計画期間

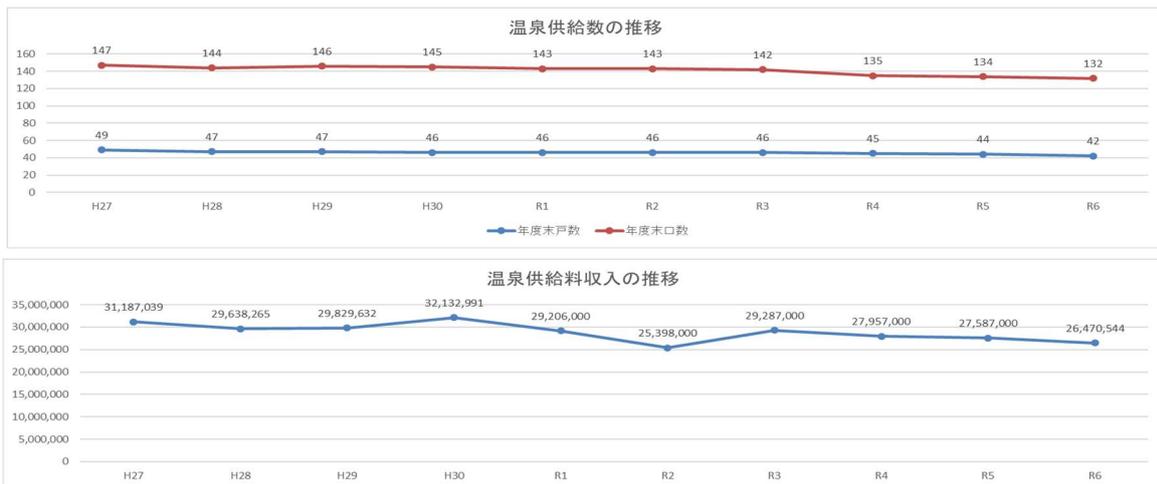
令和8年度から令和17年度までの10年間とします。

3. 現状と課題

(1) 温泉供給数と料金収入の推移

令和6年度の温泉供給数は42戸、132口であり、ピーク時の平成10年度の74戸、218口と比較すると△32戸、△86口と大きく減少しています。

また、温泉供給数のうちホテル・旅館等が25戸、107口、別荘・保養所等が17戸、25口となっておりますが、利用者の高齢化や観光客の減少により温泉供給数及び料金収入が減少しており、今後も減少傾向は続くと考えられます。



(2) 施設の老朽化

事業開始から60年以上経過しており、かなり老朽化している施設があることから、日常メンテナンス業務等により早期に異常箇所を発見し、計画的に修繕や更新をしていく必要があります。

4. 投資計画

日常の維持管理業務等で施設の状況を把握し、随時計画に反映させることで事業費の平準化を図ります。また、長寿命化に向け検討します。

今後10年以内での大規模な改修等は予定していませんが、今後も適切な維持管理に努め、定期的に点検を行い、施設の長寿命化を図ってまいります。

カラ吹き2号源泉については、平成27年3月に発生したカラ吹き源泉事故を契機として、今後の温泉事業のあり方について検討を重ねた結果、温泉事業の所有する源泉を埋抗することで進めておりましたが、埋抗工事作業中の安全対策が難しいことから実施設計業務を行える業者がおらず早期の発注は難しい状況ですので、老朽化が進んでいるカラ吹き源泉井周囲の安全対策を行い事故防止を図ります。

また一方で、カラ吹き源泉を利活用したいという要望もあることから、一定の安全性が確認でき次第、埋坑の実施を含め、今後の活用について検討します。

5. 財政計画

当事業における主な収益的収入は、営業収益の供給料収入、営業外収益の一般会計繰入金です。このうち供給料収入については、利用者の高齢化や観光客の減少により、収入も減少しており、今後もその傾向は続く見込みです。

一般会計繰入金については、効率的な維持管理を行い、経費削減や事業費の平準化を図ることで繰入額の縮減に努めます。